



TITLE:

京大広報 No. 288

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 288. 京大広報 1985, 288: 619-622

ISSUE DATE:

1985-03-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209397>

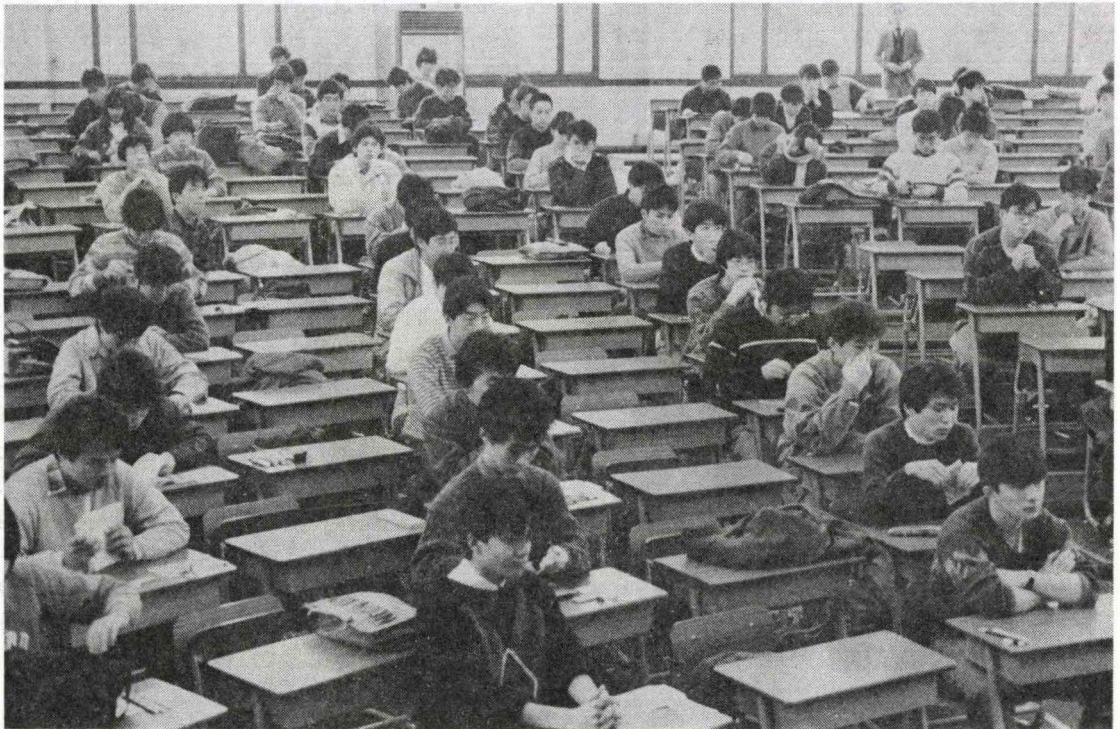
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

# 京大広報

No. 288

京都大学広報委員会



試験開始を待つ受験生（3月4日，法経第1教室）—関連記事本文 620 ページ—

## 目 次

昭和60年度入学者選抜学力試験	白浜海の家開設.....	621
（第2次学力検査）の実施.....	日 誌.....	621
620	＜随想＞	
昭和60年度医療技術短期大学部	ノート・バイオトロン 裏話	
入学試験の実施.....	名譽教授 加藤 勝 .....	622
620	計 報.....	622
＜紹介＞		
教育学部 社会教育講座.....		620



## ＜大学の動き＞

昭和60年度入学者選抜学力試験  
(第2次学力検査)の実施

昭和60年度入学試験(第2次学力検査)は、3月4日(月)と5日(火)の両日に実施された。各学部別の受験状況は次表のとおりである。

なお、合格者の発表は、3月18日(月)の午後、学部ごとに行われる予定である。

学 部	募 集 人 員	志 願 者 数	受 験 者 数	欠 席 率
文 学 部	200人	713人	694人	2.7%
教 育 学 部	50	135	134	0.7
法 学 部	350	903	892	1.2
経 済 学 部	210	592	581	1.9
理 学 部	281	745	736	1.2
医 学 部	120	449	414	7.8
薬 学 部	80	202	199	1.5
工 学 部	945	2,194	2,172	1.0
農 学 部	300	686	676	1.5
計	2,536	6,619	6,498	1.8

(注) 法学部と経済学部の「志願者数」と「受験者数」には、外国学校出身者のための選考試験志願者49名と21名とが、それぞれ含まれている。

昭和60年度医療技術短期大学部  
入学試験の実施

医療技術短期大学部では、3月4日(月)と5日(火)の両日に昭和60年度の入学試験を実施した。受験状況は次表のとおりである。

なお、合格者の発表は3月14日(木)の午後に行われる予定である。

学 科	募 集 人 員	志 願 者 数	受 験 者 数	欠 席 率
看 護 学 科	80人	185人	154人	16.8%
衛生技術学科	40	283	240	15.2
理学療法学科	20	144	125	13.2
作業療法学科	20	79	73	7.6
計	160	691	592	14.3

(医療技術短期大学部)

## ＜紹 介＞

## 教育学部 社会教育講座

## 1 社会教育講座の設置と経過

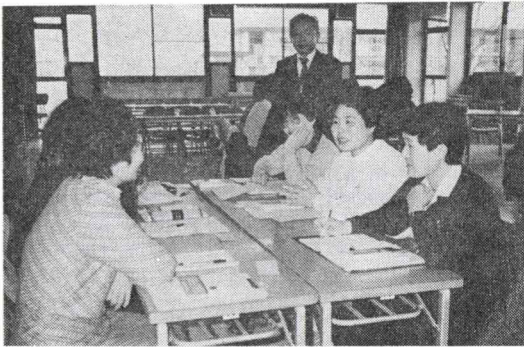
現在の社会教育講座は、昭和28年8月に教育社会学第2講座として設置された。講座の内容を明確にするため、昭和40年度より社会教育講座に改称したのである。このような経過から本学の社会教育研究は、社会学的な研究態度を特色としている。

社会教育は、教育社会学や教育心理学のような研究方法上の特質に基づく学問領域ではなく、家庭や学校で行われる教育以外の、広く社会で行われる多様な教育作用を包括する教育領域の呼称である。このため本講座のスタッフは、大学内での社会教育に関する教育・研究のほかに、夏季に行われる社会教育主事講習への協力や地方自治体の社会教育事業に関与する機会も多い(写真)。

戦後の社会教育は、急激な社会変動とともに著しい変化を遂げてきた。昭和20年代から30年代の前半は、戦後の経済再建や民主主義啓発につながる農村中心の公的社会教育が主流を占めていた。この期間の社会教育で青年問題といえ、それは勤労青少年教育や青年学級のことであり、婦人教育といえ、地域婦人会や婦人学級を意味することが多かった。本講座でも昭和33年から40年頃までは、ほとんど毎年、京都府下各地の婦人学級や青年学級の現地調査を行っている。

ところが経済成長とともに都市化が進み、青少年の多くが高校に進学するようになると、大部分の青年は都会に流出して、青年会や青年学級は解体し農村中心の公的社会教育の比重は低下した。その反面で、カラー・テレビが普及し、各種学校・専修学校が激増した。さらに昭和40年以後のユネスコにおける生涯教育理念の提起は、わが国でも強い関心をもって受けとめられ、新聞社・放送局・百貨店などの行う民間教育文化事業が台頭した。婦人の学習も、農村型地域婦人学級から、ターミナル施設の自由利用型に変わったのである。

社会教育には、二つの側面がある。その第1は経済的にも余暇にも恵まれている社会階層に、多様で充実した教育機会を拡充していくことである。先進諸国では、大学拡張・放送大学・教育有給休暇など「働きながら学ぶ制度」の改革が進められているが、これらの工夫も、どちらかというと、すでに学歴も高く生活条件にも恵まれている階層に利用されている場合が多い。社会教育の第



N市の社会教育バズ・セッション（話し合い学習）

2の側面は、社会で抑圧されている人びとの人権の保障と拡大に、どのような教育面での貢献ができるかの探求である。大学で社会教育を専攻する学生・教官にも、自治体の社会教育関係者にも、同和教育、障害者教育、在日外国人教育、女性差別撤廃教育などに関心をもつ者が多いのは、この第2の側面に対応している。

本講座でも、高度経済成長がはじまるころから、その犠牲として日陰の自治体になっていく京都府下の諸地域に出向くことが多くなった。また、「同和对策事業特別措置法」の期限切れを1年後にひかえた昭和52年には熊本県や鹿児島県の同和地区実態調査を行った。

## 2 社会教育講座からの提案

昭和54年度以来一般市民を対象として実施している京都大学市民講座は、昭和59年度で第6回目を行ったが、毎回大好評であったことは高く評価されてよいであろう。けれども欧米の大学拡張にくらべて、日本の大学が成人教育に果してきた機能を歴史的に振り返って見るとき、その消極性は歴然としている。本学の国際交流は年を追って盛んになっているが、来日した欧米諸国の教育学者が共通して驚くのは、有名な諸大学に成人教育サービスのための事務局もなければ、教官組織も確立していないことである。明治39年に本学教授であった谷本 富博士が、すでに同じことを指摘してから、すでに80年が経過している。

本学の長期的な将来構想のなかで、欠かすことのできない重点項目として、一般的な生涯教育サービスと、人権の保障・拡大に資する研究・教育サービスのネットワークを考えるべきであろう。社会教育の間口は広く、本学は人材に恵まれている。社会教育の1講座で行い得ることは高が知れているが、本学が全体としてこれらの課題に対応する有機的なシステムをつくれば、その貢献には、はかり知れないほど大きな未来があるであろう。

（教育学部）

## 白浜海の家 の 開 設

本学の学生及び教職員の厚生施設として、白浜海の家を下記のとおり開設します。

この海の家は、三段壁をはじめ千畳敷・円月島など風光明媚な南紀白浜にあり、海に近く、夏は海水浴に最適のところ です。

海の家のある理学部附属瀬戸臨海実験所構内には、500種以上の海の生物を集めた水族館があり、有料で公開されています。

### 記

1. 名 称 京都大学白浜海の家
2. 所在地 和歌山県西牟婁郡白浜町  
京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所構内

### （交通機関）

国鉄紀勢線「白浜駅」下車、明光バス「明光バス本社前」行に乗車、終点で「臨海」行バスに乗換えて、「臨海」下車。

3. 開設期間 4月1日(月)から9月10日(火)まで。
4. 室 数 和室3室
5. 収容人員 35名
6. 所要経費 1人1泊使用料50円、ほかに食費等実費程度。
7. 申込み及び利用に関する詳細は、体育会事務室（西部構内総合体育館内、電話学内2574）に照会してください。

（学生部）

### 日 誌

（1985年2月1日～2月28日）

- |                         |                   |
|-------------------------|-------------------|
| 2月1日 同和問題委員会            | 15日 環境保全委員会       |
| 5日 評議会                  | 19日 発明審議委員会       |
| 〃 保健衛生委員会               | 20日 総長、大学院生協議会と会見 |
| 12日 創立七十周年記念後援会助成金選考委員会 | 〃 国際交流委員会         |

